



生物学的製剤

関節リウマチ患者様に

生物学的製剤

リウマチの関節破壊を抑える、点滴や注射薬です。
リウマチ患者様の7～8割に効果があります。

生物学的製剤とは？

＋ 役割

- 関節リウマチは「関節の火事」に例えることが出来ます。「関節の火事」の原因は炎症性サイトカイン(TNF α とIL-6)と言う物質で、その火事を消すお薬が生物学的製剤です。
- 生物学的製剤は「抗体」と呼ばれるタンパク質で、生きた細胞から作られるので「生物学的製剤」と呼ばれます。
- 現在TNF α に対する生物学的製剤が5種類、IL-6に対する生物学的製剤が2種類、また別の機序でT細胞と呼ばれる免疫を調整している細胞に働く生物学的製剤が1種類の合計8種類があります。

＋ 生物学的製剤が治療薬として選択される場合

関節リウマチの治療には、多くの場合最初にメトトレキサート製剤が使われます。治療は「寛解」(病気の勢いが落ち着いて、痛みや腫れのない状態)を目指して行われます。しかし、治療後3ヶ月で改善が認められない場合やメトトレキサート製剤で副作用が出る患者様には、他の飲み薬を加えたり、変更したりします。その後3～6ヶ月経っても「寛解」に至らない場合には生物学的製剤の使用を積極的に考えます。

生物学的製剤の種類

▶ 点滴製剤(病院での点滴)

レミケード／アクテムラ／オレンシア

- 点滴製剤は来院していただいて、病院での点滴になります。

▶ 皮下注製剤・ペン製剤

(自己注射が可能な生物学的製剤)

エンブレル／アクテムラ／オレンシア／

シンボニー／シムジア／ヒュミラ／ケブザラ

- 皮下注製剤やペン製剤は、自己注射も可能です。
- 自己注射を希望される場合は、医療スタッフによる「自己注射指導」を受けてからご自身で注射をします。

生物学的製剤の種類により、注射の間隔(週2回から2ヶ月に1回まで様々です)や点滴・皮下注射の違いがありますので、医師と相談の上決定いたします。



生物学的製剤の副作用とその対策

＋ 生物学的製剤の副作用

副作用の大部分が感染症です。

肺炎が2%、特殊な肺炎（間質性肺炎やニューモシテリス肺炎）がそれぞれ0.5%、また、結核の既往がある患者様も結核が再発することがあります。B型肝炎の既往のある患者様では時に肝炎が悪くなることがあります。

＋ 副作用の予防

生ワクチン（BCG、麻疹、風疹、带状疱疹など）は感染する危険があるため、受けることはできません。

- 副作用対策として、治療開始前にCT検査やT-スポットと言われる採血による検査などを行い結核の感染の有無をチェックします。

陽性であれば、抗結核薬を少量、
9ヶ月服用します



- B型肝炎の既往があり、肝炎ウイルスがまだ存在している場合。

肝炎の治療薬を服用しながら
生物学的製剤を投与します。



- 肺炎予防の為に、肺炎球菌ワクチンの接種を行います。

注射投与時のアレルギー反応が0.5%程度
現れることがあります。



＋ 生物学的製剤は高い？

- 生物学的製剤は全て注射（点滴もしくは皮下注射）です。
- 値段は製剤ごとに差がありますが、月に3～8万円程度（3割負担として）の自己負担が必要です。
- 生物学的製剤は一回だけで終了するものではなく、長期間継続することが必要です。

上記に述べた副作用のリスク管理と経済的なご負担などにつきましては、患者様と医療スタッフやソーシャルワーカーが十分な治療計画を練ってから治療を開始いたします。

＼ ご相談ください ＼

男性医師だから相談しにくい…。

診察中ゆっくり話が出来ない…。

説明をよく理解できなかった

このようなことなどがありましたら、いつでもスタッフに相談してください。

医師と連携をとりながら不安や疑問にお応えいたします。

大切なことは一人で悩まないこと、自分で判断しないことです。

病気とうまくつきあいながら普段通りの生活を送れるよう
スタッフ一同願っています。



医療法人 清仁会

北海道内科リウマチ科病院

☎(011) 611-1371

スタッフ一同